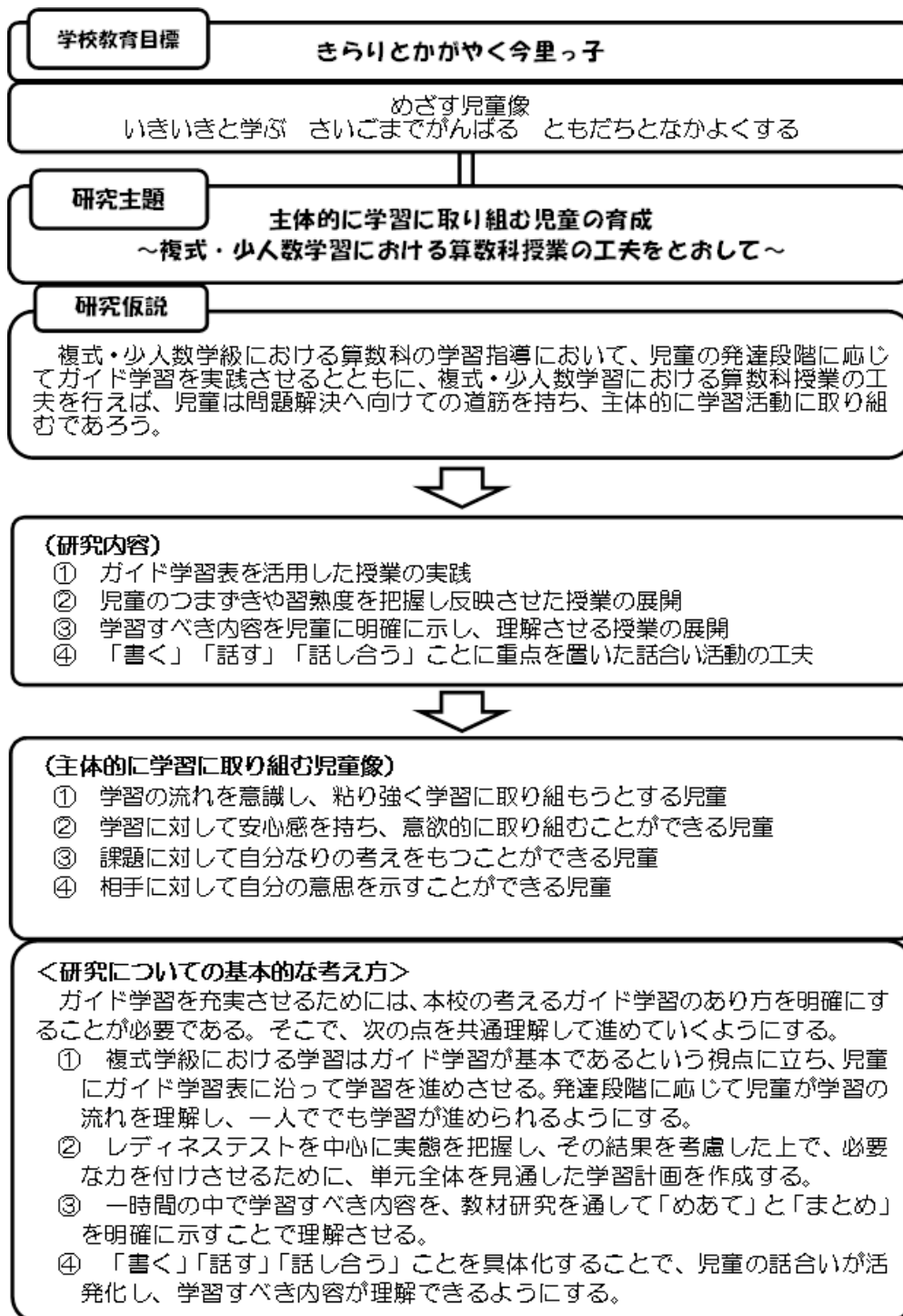




「複式教育」研究概要

新上五島町立今里小学校

(1) 研究の全体構想図



(2) 研究の概要

① 研究主題

主体的に学習に取り組む児童の育成
～複式・少人数学習における算数科授業の工夫をとおして～

② 研究主題設定の理由

本県は、複式学級を有する学校が多数分布しており、現在も増加の傾向にある。
本町は、複式学級を有している小学校が8校(平成25年度)ある。
本校は、平成25年度から、3学級編制の完全複式となっている。

本県、本町、また、本校にとって、複式教育の充実は欠かせない。

標準学力検査(算数科)の結果

- ・ 基礎的・基本的な力については県平均より高い結果が得られた学年もあるが、応用力を問う問題に対応できていない。
- ・ 算数科における関心・意欲の低さが顕著に表れている。

授業における実態

- ・ 授業の進行表に基づいて自ら学習を進めることができているが、あくまで形式的なものであり、臨機応変な対応は難しい。

深め合いの充実を図る一方で、ガイド学習の充実や複式・少人数学習の指導の工夫を行うことは、主体的に学習に取り組む児童を育成する上で重要である。

③ 研究の内容

本研究を進める上での基本的な考え

- 児童が、算数科の学習において、自ら学習を進めることができること
- 新しい問題に出合ったときに、解決方法を個人または集団で話し合い、解決の道筋を付けることができるようになること

研究内容

- ① ガイド学習表を活用した授業の実践
- ② 児童のつまずきや習熟度を把握し反映させた授業の展開
- ③ 学習すべき内容を児童に明確に示し、理解させる授業の展開
- ④ 「書く」「話す」「話し合う」ことに重点を置いた話し合い活動の工夫

(3) 研究内容の実際

研究内容（抜粋①） ガイド学習表を活用した授業の実践

学習の流れを意識し、粘り強く学習に取り組もうとする児童を育成することをねらいとします。

「ガイド学習」の位置付け

ガイド学習は複式教育の基本であり、複式学級における授業を成立させるための極めて重要な要素である。そこで、本校では、「ガイド学習を基本に置きつつ、算数科の授業を分かりやすくする」ことを念頭に、2か年にわたってより良いものを目指した。

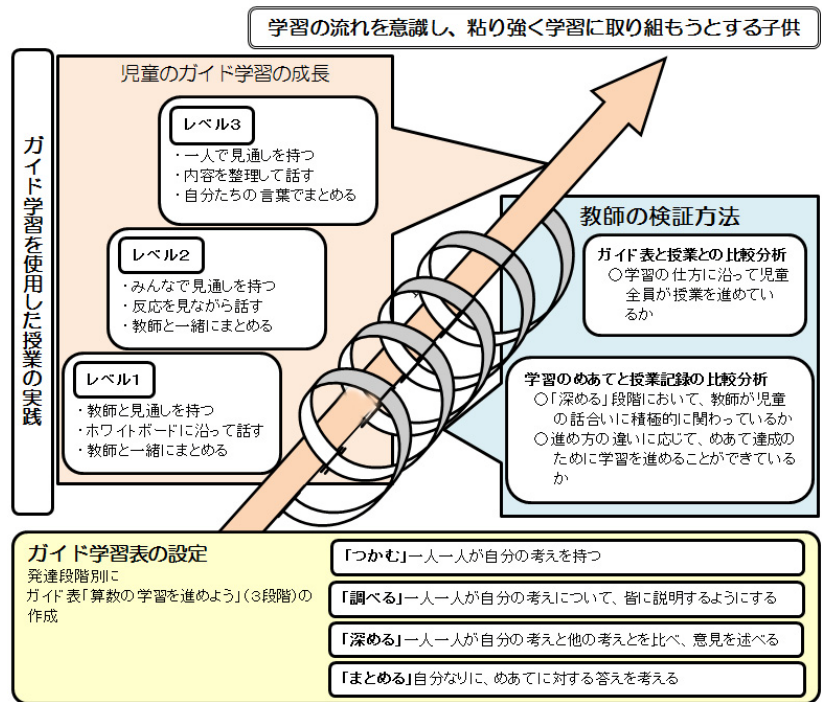


図1 ガイド学習を充実させるためのステップ

検証

研究授業等を通して、各学級が「発達段階に合わせたガイド学習表の効果」について検証した。

<例：第5・6学年>

（昨年度の課題）

- 「深める」場面において、話し合いの深まりが見られなかった。直接指導、間接指導について、教師の関わり方を意識して工夫していく必要がある。

（校内の仮説・検証方法について、学級内で特に実践したこと）

- 「深め合う視点」(い・ま・さ・との視点)を示し、「何を目的に深め合うのか」を意識させるようにした。

（検証の結果得られたこと）

- ガイド学習を通して、児童全員が学習の流れを意識し、自分たちの手で問題を解決していこうとする姿が育った。

深め合う

考えの ①いいところを出し合う
 しているところで ②まとめる
 一番を ③さがす
 考えの ④とくちようをみてわかる

(効果)

- ・ 児童の実態を把握し、授業計画を立てることで、結果的に児童の弱点を克服することができ、児童の安心感につながった。
- ・ 児童の考えが多様化しても、担任が「この方法を使うことで目標を達成しよう」という意識を持って指導ができるため、単元を通して、「ぶれない」指導ができた。

(4) 成果と課題

① 成果

○ ガイド学習における「系統性」を持たせること

ガイド学習について、学年間（レベル間）の系統性を意識し、段階を踏まえて指導したことで、学年が進むごとに自分たちで学習を進めることに自信を持ち、学校全体の学習意欲の向上につながった。

○ 算数の学習内容を習得させること

単元で習得させたい学習内容について、教師は、児童の実態を把握し、「この場面でこの学習内容を理解させよう」という意識を持って取り組んだことにより、毎時間のめあてを児童に意識させ、ポイントを絞った話し合いを行わせることができた。

○ 研修の進め方の工夫

基礎研究の段階から校長室で膝を交えて研究したり、指導案検討の初期段階から模擬授業を行ったりするなど、研修方法の改善を行うことで、効率よく研修を進めることができた。また、図を効果的に使用し、校内・校外を問わず、「分かりやすさ」を意識して資料等を作ることができたと考えている。

② 課題及び今後の取組

○ ガイド学習が「手段」であることの意識

複式学級においては、ガイド学習は重要であるが、あくまで学習内容を理解させるため、主体的な学習を実施するための「手段」であるという意識を持ち、授業では常に「学習内容についての検討」ができるようにすることが必要である。

○ 将来へ向かって「学びの意識」を持たせること

本研究のゴールは、児童が「新しい問題に出合ったときに、解決方法を個人または集団で話し合い、解決の道筋を付けることができるようになること」である。小学校を卒業した後も、生涯にわたり「自ら学ぶ」態度を持つことができるようにすることが必要である。

私たちは、「複式学級における算数科授業」をきっかけに、常に将来を見据えて学びの意識を持たせることで、「生きる力」「学力」が身に付くことにつながると考える。

詳しい内容をお知りになりたい方は、
ぜひ本校へご連絡ください。

きらりとかがやく今里っ子
新上五島町立今里小学校

〒857-4413 長崎県南松浦郡新上五島町今里郷 245-9



TEL 0959-52-2274

FAX 0959-52-4991

E-MAIL el-imazato@tubakinet.com